

○節分追儺式法会 二月三日

今年の節分追儺式法会は盛りだくさんの内容で修められ、嬉しい立春のお迎えを致しました。節分のご祈祷に先立ち、前日奉納された賓頭盧尊者（おびんずるさま）像の「点眼式」を勤修。

引き続き、転読大般若法要にて檀信徒各家の除難招福をご祈禱申しあげました。その後はお楽しみ「奉納演芸」が納められました。

最初に幫間（ほうかん）芸の悠玄亭玉八（ゆうげんてい たまはち）師匠が、伏見総代の紹介で登場。「笑う門には福来る」、賑やかに春を迎えようとの趣旨でお招き致しました。幫間とは、玉八師匠曰く「又の呼名を太鼓持ち、男芸者と言えば少し分り易いでしょうか。読んで字のごとく、『間をたすける』。即ち客と芸者の間

— ニュース・アラカルト —

をとりもち、芸で間をつなぐ宴席の盛り上げ役」
「戦後は、全国に五百人程がいたといわれているが現在は東京浅草見番に所属する四人が伝統の芸を伝えている」（玉八師匠のホームページより）。滅多にお目にかかれない芸に、皆様興味津々。笑っている間に四十分、あつと言う間に過ぎてしまいました。

続いては獅子舞の出番。お檀家の保田様のご縁で実現しました。

獅子舞は、力強く舞う姿で魔を祓い、大きな口で噛まれると人についている邪気を食べてくれると言われます。病気や悪いことから身を護ってくれる縁起ものとして親しまれています。
奉納演芸の後には、お待ちかねの「豆まき」。獅子舞も登場しての賑やかな豆まきとなりました。





川島囃子保存会 ホームページより

【川島囃子(ばやし)】は横浜市保土ヶ谷区、川島地区に古くから伝わる郷土芸能。江戸時代後期から実に二百年以上も脈々と受け継がれ、一九八〇年に横浜市初の無形文化財に認定。

太鼓や鉦(かね)、それに唯一のメロディを奏でる笛に併せて、コミカルな動きをみせる「おかめ」「ひよっとこ」「笑面」という五人で構成されるのが、川島囃子の基本スタイル。

楽しい動きで笑いを誘うその演技は、今や祝宴には欠かせぬ存在として区民に親しまれているが、元々は農業の豊作を祈念して始まった由緒ある伝統芸能で、区内にも保存会が幾つか存在している。

特に川島囃子保存会(三村守会長)のメンバーは全員が川島町在住で、文字通り「地元」の文化を守り、古代から受け継ぐ独特の『間』にも一切アレンジを加えず忠実に再現。各方面から高い評価を受け、横浜市の無形文化財指定をはじめ、海外公演を成功させるなど幅広く活躍している。

○春彼岸法会 三月十八日

法話 大本山永平寺別院長谷寺参事兼悦事

静岡 保春寺副住職 勝田岳芳師

大本山永平寺にて七年間の修行を了え、現在は永平寺別院にて修行者の指導にあたる勝田岳芳師。昨年までは週末を中心に善光寺でお手伝いして下さっていました。

自己中心的な我見を捨てて、仏法僧の三宝を拠り所にするという仏教徒のあるべき姿を、永平寺修行中に派遣されたヨーロッパ海外研修での出来事を交えご法話下さいました。

坐禅修行を中心とした研修期間にて、老師から戴いた励ましの言葉や、世界中から純粹に仏道を求めて集まる修行者の姿勢に感銘を受けたそうです。至らぬ自分に気付き、転じていく真摯な姿、丁寧にわかりやすく伝える法話に参列者の方も深く感動していた様子でした。

— ニュース・アラカルト —



○孟蘭盆施食法会 六月二十四日、二十五日

法話 当山住職

五月の旅行で訪れた清水寺森清範猊下のお話を紹介。「見える命は、見えないいのちに支えられている」、お盆の行持はそれに気づき感謝できる行持です。共によいお盆をお迎え致します。



— ニュース・アラカルト —

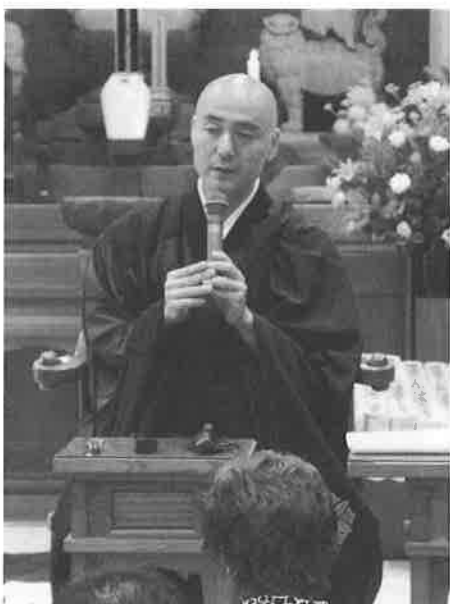
○秋彼岸法会 九月二十日

法話 大本山永平寺別院長谷寺知客

山梨長泉寺住職 水庭浩章師

「人生はパーフェクトです」……色々あってもその覚悟を持って人生に答えを出していく。力強いご法話に皆真剣な眼差しで受け止めていました。

(水庭師の法話は36ページをご覧ください)



○身代り不動明王大祭 大般若祈祷法会

五月二十八日

ご祈祷前に米陀光総代の婚約者、千葉麻美様によるフルート演奏が行われました。

「アマポーラ」や「上を向いて歩こう」など一度は耳にした事のあるメロディーを三十分程度演奏、最後に「愛の賛歌」、リクエストとして「マイウエイ」など先代方丈様の好きだった曲が流れるとまさに本堂に先代方丈様が顕れたような感覚を覚えました。



優しい音色
が心にしみわ
たるひととき
でした。

— ニュース・アラカルト —





山内整備進む

○成寿堂・成寿庵完成

梅嘉庵より不動殿に到る土地に新たな庫裏が建設されました。

「成寿堂」と名付けられた一階部分には檀信徒並びに有縁の方々よりご寄進頂いた絵画や掛軸、壺などを収蔵致しました。

これまでは山内各所に置いていたものを一箇所に集め空調が整った場所で保管致します。二階は庫裏となります。

— ニュース・アラカルト —



○道標が建ちました

大駐車場の一角に「善光寺参道」と彫刻された大きな石碑が建立しました。この石碑は昨年逝去された鳥居秀行総代が発願されたもので、氏亡き後ご子息の悟氏がその遺志を受け継ぎ建立されました。

御岳山の黒光真石（こっこうまいし）に、京都清水寺森清範猊下に御揮毫頂きました。

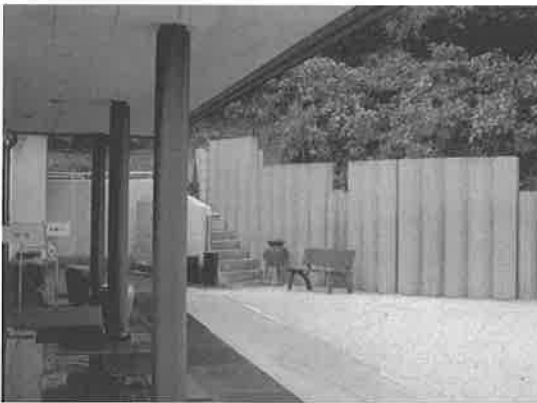
鎌倉街道より善光寺へ登ってくる道の途中に大きな道標が出来ました。

○駐車場整備

道標の建つ大駐車場の隣、米陀石材店の右斜め向いに新しく駐車場を整備しました。十七台分の駐車スペースがあります。どうぞご利用下さい。

尚、釈迦殿前のスペースは荷物の積み下ろしや御足の不自由な方の乗り降りの際にご利用い

— ニュース・アラカルト —



○釈迦殿前庭整備

ただき、法要など長時間の駐車は出来るだけ大駐車場のご利用をお願い致します。

山桜や紫陽花の花が咲く釈迦殿脇の山に土留め工事を行いました。

大きな石柱を地元石材店の皆さまよりご寄進頂きました。

漢詩講座

四月から八月にかけて全九回にわたり小田原成願寺住職山口晴通老師を講師にお迎えし漢詩講座を開講致しました。

「平仄（ひょうそく）」などの漢詩の基礎から丁寧にご指導頂き、唐詩のみならず頼山陽や江馬細香など日本の漢詩も多くご紹介頂きました。また良寛さんについては特に親しくお話をさせて頂きました。

日本はもとより世界各地を旅された話や、漢詩の背景にまつわる話など楽しく有意義な講義を頂きました。ありがとうございました。

— ニュース・アラカルト —



無底会会場

四月十三日と六月六日に無底会（会長吉岡博道老師）による詩偈の勉強会が開催されました。大智禪師六五〇回忌に併せて大智禪師偈頌を勉強する会として発足した無底会は主に関東各県の曹洞宗寺院を巡り学びを深めております。

今回は会員の戸澤洋太師と種井英雄師が善光寺に随身しているご縁から善光寺での開催となりました。

善光寺拝登惣先師

吉岡 博道

相承鉢盂活機禪

朝夕結眉五十年

下野水滌日野澗

滴流繁衍順方圓

ニュース・アラカルト

梅花流詠讚歌 師範会会場

九月十二日、神奈川県第二宗務所梅花流詠讚歌師範会・初心者講習会が善光寺を会場にして行われました。

梅花流詠讚歌とは……

人は幸せを願って生きています。しかし、誰しも悩み、悲しみ、苦しみを体験しない人はいないでしょう。そうした時に心を支えてくれるのが、「梅花流詠讚歌」です。その歌詞には私たちが安らぎの世界へと導いてくださる仏さまの教え、想いが示されています。

一人では出来ないことも、多くの人々と共に学び、励むことによって楽しみになり、充実した人生を歩むことができます。現在全国各地十六万人の方々が梅花流詠讚歌に親しんでいます。

事をご報告申し上げます。

善光寺青年会

善光寺開創以来青年会会長をお務め頂いていた山口義男総代に代わり鳥居悟総代が青年会会長に就任致しました。九月六日の総代会にて承認され委嘱状が付与されました。

開創以来四十六年の長きに渡って青年会会長をお務め頂いた山口総代は「先代方丈に言われて二つ返事で青年会長を受けましたが、会長を辞めるといわれる前に先代が亡くなってしまっこの年まで青年会長を務めてしまいました。や」と若い世代に引き継ぎが出来てほっとしていただきます」と笑顔でご挨拶頂きました。

いつも若々しく青年といわれてもおおかしくない容姿の山口総代。今後は青年会終身名誉会長

ニュース・アラカルト

となります。

鳥居悟新青年会会長は地元の鳥居石材店社長。若い感覚で新しい青年会の活動を企画したいと抱負を語られております。益々、檀信徒の皆様が集えるお寺を目指して寺檀共に活動して参りたいと思います。

種井英雄師ご結婚

五月四日、愛知県岡崎市興圓寺副住職・種井英雄師と智美さんが仏縁熟し結婚いたしました。種井師は金沢大乘寺での修行後平成二十三年より善光寺に務めております。

ご法事の他、平日は横浜やすらぎの郷霊園にて園内の清掃整備を主に担当しております。種井師の益々のご活躍と末永いお幸せを祈念申し上げます。

ボーイスカウト坐禅会

二月十四日（日）、毎年恒例のボーイスカウト坐禅会が、釈迦殿で行われました。

今年も早朝、冷え込む中に元気な少年、少女、青年そして付き添いの保護者の方々、八十名余が来山。一緒に坐禅致しました。

三十年以上も継続してきた坐禅会です。団体や企業の研修坐禅会も承ります。詳しくはご相談下さい。

— ニュース・アラカルト —

